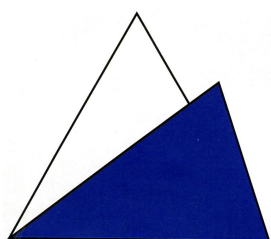


会員と千葉県連盟をつなぐ

ちばニュース

2020年 3月号



千葉県勤労者山岳連盟

Chiba Workers Alpine Federation

2020年 3月1日発行 通巻323

ちょっとした転倒で

捻挫・骨折・滑落！！

3月号目次

・ 目 次	2
・ 2月理事会報告	3
・ 全国連盟総会報告	4
・ 関東ブロック合同訓練報告	7
・ ハイキング委員会報告	9
・ リレーエッセー（大小山・大坊山縦走報告）	10
・ （山と出会って）	12
・ 第22回ウイークデー山行案内	13
・ ふわくHC会報より	14
・ 県連予定表	16

K 2

2005年6月、パキスタン・ガッシャブルム1のベースキャンプに向かう途中、バルトロ氷河・コンコルディア（3691m）よりのK2（8611m）です。

日中は40度近い高温、日が落ちるにしたがい気温が下がり夜間は氷点下の氷河上を八日間歩きやっとたどり着きました。

翌日は、雪が15cmも積りました。その上をポーター達は破れたズック靴で20kgの荷を担いで歩き、テント代わりのブルーシートの下で身を寄せ合って寝ます。辛い光景でした。

ところで、「K2」は、なぜ「K2」なの???

——編集者——

千葉県連盟 2 月度理事会報告

報告者 酒井 莊多（船橋勤労者山の会）

1、実施日 2020 年 2 月 20 日（木） 19 時より

2、場 所 船橋市西部公民館 2 f 会議室

3、参加会 市川山の会 君津ケルン山の会 かがりび山の会 山の会「岳樺クラブ」 船橋勤労者山の会 ふわくハイキングサークル 松戸山の会 まつど山翠会 まつど遠足クラブ 1 年さくら組 東葛山の会 千葉こまくさハイキングクラブ ちば山の会 千葉民医連山を歩こう会 古瀬顧問 広木会長 鶴田副理事長 小林会計担当 桑原ハイキング委員長 菅井自然保護委員長 伊東教育遭難委員長 岡田ふれあいハイク実行委員長（こまくさ HC）

4、委員会報告

① ハイキング委員会（桑原委員長） ・房総ロングハイク（1 月 25－26 日七里川温泉）は、雨のため中止とした。来期も同じベースでやる。 ・6 月 11 日（木）ウィークデー山行は玉原高原、尼ヶ禿山で募集予定。

② 教育遭難委員会（伊東委員長） ・事故報告：1 月 12 日船橋勤労者山の会の女性が幕岩でクライミング中に足を痛めた。 ・雪上技術講習を 4 月 4 日（土）谷川岳マチガ沢出合で行い、4 月 5 日（日）天神尾根から谷川岳登頂予定。

③ 自然保護委員会（菅井委員長） ・3 月 11 日に自然保護委員会開催予定。

④ ふれあいハイク実行委員会報告（岡田実行委員長） ・横須賀の大楠山 241m の下見を行った。10 月 25 日（日）ふれあいハイクを行う。車いす 7 台迄とし、鎌ヶ谷からバスを出す予定。

5、その他

・全国連盟総会が 2 月 15－16 日開催された。安彦東葛山の会代表、菅井自然保護委員長、伊東教育遭難対策委員長、広木・石川・山本全国理事が参加した。広木会長は全国連盟理事を退任する。千葉県連からの全国理事は 2 名となる。

・事故報告提出（鶴田副理事長） ・1 か月以内に各会から直接、全国連盟及び県連教育遭難対策委員長に提出する。期限後提出の場合は嘆願書が必要。1 か月以内の提出を遵守して欲しい。

6、県連総会の準備（広木会長） ・受付は千葉こまくさハイキングクラブと東葛山の会、資格審査委員は松戸山の会、議長は船橋勤労者山の会から各 1 名とする。総会資料は各理事が持ち帰り代議員に配布する。理事・役員は当日 10：00 に集合し、準備。10：30～11：30 理事会を行う。総会では県連への要望など出席者の声を聞きたい。

以 上

全国連盟第 34 回総会に参加して

安彦 秀夫（東葛山の会）

日時：2020 年 2 月 15 日（土）12：00 ～ 16 日（日）12：00 （1泊2日）

場所：ホテルコンチネンタル府中（東京都府中市）

代議員：出席 68 名、委任状 6 名（2 日目議案採択時資格審査発表）（定数 80 名）

全国：会長、副会長、監事、事務局、専門委員、理事長、副理事長、理事など

千葉県連参加者（7 名・敬称略）：全国連盟理事（廣木國昭、山本尚徳、石川昌）、

代議員（菅井修、伊東春正、安彦秀夫）、傍聴者（廣木愛子）

新型コロナウイルス感染が連日マスコミで報道される中、一抹の不安を抱えながらマスク着用で参加しました。にもかかわらず、マスク姿はほんの僅かでした。

北海道から沖縄までの各都道府県連の代議員が集い、議案書に盛られた多くのテーマに対して活発な質問や意見・提案、そして各地方連盟からの活動報告などが 2 日間に亘りありました。

議案書に対する主な質問や意見・報告は、次の通りです（順不動）。

- ① ROUSANパートナーズ制度閉鎖総括（検証委員会報告）→指摘事項を真摯に受止める
- ② ハイキング交流集会（関東地区開催）の具体的内容→これから検討に入る
- ③ 東日本支援活動に対する補助金支給を復活してほしい→考えていない
- ④ 登山時報のデジタル化→紙媒体と電子媒体の 2 本立てに向けて継続検討する
- ⑤ 『ハイキング A・B・C』や『ハイキング セントステップ』の改定予定→当面考えていない
- ⑥ 安全登山→事故事例集作成取り組みの地方連盟単位での実施紹介（愛知・大阪）
- ⑦ 会員減少の歯止め→労山の魅力を盛り込んだパンフレットの作成を早急に行う
- ⑧ 台風被害状況と登山道整備等→千葉・神奈川などより報告あり
- ⑨ ココヘリの普及→道迷い時に短時間で救出された例などの紹介
- ⑩ 脱会した会の中の継続希望会員への対応→地方連盟で対応できないか検討必要
- ⑪ 労山基金の中で遭難に特化した基金創設→掛け金と補償内容等を検討する
- ⑫ 『登山時報』に『事故事例』のコーナーを設け、連載してほしい→検討する
- ⑬ 2020 年労山カレンダーは不評である（小さく、月～日は見にくい）
- ⑭ 会員数と労山基金加入数の異なる会が多い→ずれは調査日が異なるため
- ⑮ 『福島の子供たちとの夏休み』への補助金→現時点では考えていない
- ⑯ 気候変動に特化した集会の開催→自然保護集会などを検討する
- ⑰ 各会の労山基金担当者説明会の開催→今後も継続して実施する
- ⑱ 社会から評価される会活動を目指す総会用資料作成中（岩手県連）
- ⑲ 山行計画書をメーリングリストで共有活用している（岐阜県連など）
- ⑳ 安全登山マニュアル 28 ページを作成し会員全員に配布（埼玉県連）など

2 日目に、各地方連盟からの報告の後、浦添理事長から討議の纏めの報告があり、提案された次の議案 3 件は、全て原案通り承認されました。

- ① 第 1 号議案：第 33 期下期(2019 年)活動総括と第 34 期上期(2020 年)活動方針
⇒ <挙手採択：保留 0、反対 0、賛成 64>で承認
- ② 第 3 号議案：『日本勤労者山岳連盟規約』及び『各部局および専門委員会に関する規定』などの改定（現在の活動実態に合わせて、文言の追加・削除）
⇒ <挙手採択：保留 2、反対 0、賛成 62>で承認
- ③ 第 2 号議案：第 33 期下期（2019 年）決算と第 34 期上期（2020 年）予算
⇒ <満場の拍手>で承認

続いて、初日 18：00 までに立候補者が無く、『役員選考委員会』から推薦された第 34 期の『全国役員及び理事』の信任投票が実施され、推薦者全員が信任され、退任者及び新役員の代表者からそれぞれ挨拶がありました。

*千葉県連関連では、次の 2 名が理事として信任されました（敬称略）。

理事：山本尚徳（かがりび山の会）再任、石川晶（船橋勤労者山の会）再任
長く副理事長を担ってきました廣木國昭県連会長（ちば山の会）は退任されました。また、『荣誉功労章・永年会員章』、及び、新特別基金制度の『報奨金』の表彰・授与が行われました。千葉県連関連では、次の通りです。

*『荣誉功労章』の表彰・授与された人は、次の 3 名（敬称略）です。

菅井修（ちば山の会）、鶴田秀雄（ちば山の会）、小林康男（まつど山翠会）

*『永年会員章』は、28 名に授与されました。

君津 1、かがりび 1、あびこ 5、ちば 4、こまくさ 5、東葛 2、ふわく 6、松戸 4

*『報奨金』の表彰・授与された会は、次の 3 会です。

君津ケルン山の会、まつど山翠会、千葉民医連山を歩こう会

総会終了後、『関東ブロック打合せ』が行われ、『2020 年行事任務分担』などに付いて話し合われました。今年は、『自然保護交流集会』が千葉県連の担当です。

私は、会員の高齢化で退会する人が増えたり、若い人が入会してこないという現状もあり、会員拡大に向けた奇策（妙案）を模索中です。

これらを早急に打開する具体的な指針や安全登山教育・普及の指針について、次のような質問をしました。

- ① 『安全登山標準・計画書編とパーティ論・リーダー論』が『安全登山をめざす標準づくり委員会』から答申されているが、いつ公開されるのか？
- ② 組織強化拡大をめざす取り組みとして、次世代会員を迎え入れられる組織体制の維持や全国連盟青年アンケート結果を踏まえた具体的な指針を示してほしい。
- ③ 会運営、連盟費の使途、安全登山のための全国連盟からの地方連盟への支援、労山基金の魅力などを盛り込んだパンフレットの配布を早急にしてほしい。

会員減少の歯止めと拡大に向けて、今後どのように展開していったら良いかを模索中なので、そのヒントを得たかったのですが、どれも『これから具体的な検討に入る…』という回答で、気長に待つしかないかな…と思った次第でした。

更に、去年の房総半島の台風被害状況及び復興に向けた取り組みを報告しました。

【感想】

第33期下期（2019年度）に脱退・解散届のあった会は、『22会（248名）』で、その脱退の原因・理由の多くが、『会員の高齢化が進み会の存続や活動が困難・不能になった』でした。

多くの会で、会員の高齢化が進んでいるようです。私の所属している会も例外ではなく、昨年末実施された千葉県連組織委員会のアンケートの当会の『会員年齢構成』では、『50歳未満：0』、『50～59歳：1名』、『60～69歳：13名』、『70～79歳：32名』、『80歳以上：7名』で、『平均年齢』は、『72.2歳』でした。

高齢化が進んでいることで、会山行として取り組める山は、以前と比べて限られてきています。また、体力/注意力などが落ちてきて、これまで以上に安全登山に留意する必要が出てきています。

『楽しく安全な登山を会として継続していく』ためにも、会員拡大、特に若者の加入に向けて努力すると共に、常日頃から安全登山の教育を実践していかなければ…と改めて思い知らされた2日間でした。

このような現状から1日でも早く抜けだすための資料として、全国連盟からの『安全登山標準・計画書編とパーティ論・リーダー論』や『労山の魅力などを盛り込んだパンフレット』などが、早急に発行・配布されることを期待しています。

(2020/2/25/Tue.)



関東ブロック合同訓練の実施報告

千葉県連教育遭難対策委員 伊東春正

神奈川県連救助隊主管による関東ブロック合同訓練に参加しましたので報告します。
従来この訓練は、救助隊の活動訓練を行っていましたが、近年、公的機関での救助体制や技術が進歩していく中で、各地方連盟への救助隊出動要請はなくなっているため、今回は、遭難対策や、事故発生時のセルフ・レスキューを中心とした訓練を行いました。

1) 日程：2020年2月8日（土）9日（日）

2) 場所：秦野市表丹沢野外活動センター、広沢寺岩場

3) 参加者：神奈川県連、東京都連、埼玉県連、茨城県連、群馬県連、
千葉県連から27名（千葉県連は伊東のみ参加）

4) 訓練内容

1日目（13時～21時）

①各県連から最近の事故状況および活動状況を報告

千葉では事故が16件発生、講習会は初級雪山と初級登山を実施、課題としては、教遭委員の減少と講習会の講師不足を報告した。

②オーセンティックジャパン社からココヘリの紹介

労山会員がココヘリで救助されている事案もでてきている。

③ロープワーク&ファーストエイドの実演

④夕食&交流会

神奈川県連手作りのカレー

2日目（9時～14時30分）

①朝食&場所移動

②アルパイン系セルフレスキュー

リードレスキュー、仮固定、登り返し

③ハイキング系セルフレスキュー

スリング2本を使った簡易ハーネス、インライン・フィギアエイトノットによる手がかり

④ココヘリ探索訓練

親機を上げ下げしたり、場所移動したりして子機の電波をキャッチするのがコツ。

5) 所感

救助隊が休止中の千葉県連としては、ハイキング系セルフレスキューを期待して参加した。
昨年、千葉県連では9件の転倒事故、また全国連でも転倒事故で2件の死亡事故が発生して

おり、ハイキング系セルフレスキューの必要度・重要度は高いといえるので、今回の訓練で、ハイキング系に目を向けられたのはよい企画だと思う。

千葉県連では、7点セット（補助ロープ7または8mm×10m、60cm スリング2本、120cm スリング1本、安全環付カラビナ1枚、カラビナ2枚）を携帯することを推奨しており、これらを使って、事故者の救出と搬送、足場の悪い箇所での通過、などができるよう会員へ講習していきたい。

また、労山のココヘリ救助隊（地上からの探索）、関東ブロック内で救助要請による互助救助のネットワークがあるのは心強い。労山加盟のメリットといえる。



2019年度 第6回ハイキング委員会

- ・実施日 : 2020年2月13日(木)
- ・出席者 桑原、金井、深草、伊藤、八巻、羽鳥、根本京子(新)、岡田(ふれあい)
- ・議題 ハイキング委員交代 かがりび山の会 伊藤様(交代) 根本京子様紹介
 - ※ ふれあいハイキング実行委員 岡田様 説明と動員要請にきました。
- 1) 第36回 房総ロングハイキング 中止 残念でした。次回に持ち越し。
(25,26日一泊で七里川温泉に行ってきました。間違ってくる人の予感)
反省 会員一名が中止を知らずに来ていました。一泊して帰る。
メールを見なかったそうです。電話で確かめるべきでした。
※ しおりは次回に持ち越しOKですとのことをお願いしました。
名簿、名札などは作成し直します。
- 2) ウィークデー山行
 - ・玉原(たんばら)高原 湿原散策～尼ヶ禿山 に決定。
 - ・日時 2020年6月11日(木) バス利用2台 千葉発・東葛発
 - ・コース センターハウス駐車場 10:40 出発—玉原湿原—朝日の森ロッジ登山口—鉄塔—尼ヶ禿山山頂—鉄塔—トンネル手前登山口—ブナ平—駐車場 15:00 着予定
乗車=「望郷の湯」16:20/17:20=各地 (別紙参照)
- 3) 次期役員選出の件 決定しました。
現委員長は死ぬまで務めると言いまして頑張ってきました。しかし寄る年波には勝てません、今のうちに交代が良いと思います。
 - ・委員長、田中康男 副委員長(補佐)、羽鳥健一郎 会計、桑原取敢えず。
次回からよろしくお願いします。新しい風を吹き込んで下さい。
- 4) ちばニュース掲載引き続き行いう事にする。 タイトル(山への想い) 雑感
12月 伊藤、1月松宮、2月寺崎、3月磯部、4月八巻、5月桑原、6月羽鳥、
7月深草、8月金井、9月伊藤、10月田中、11月松宮、12月寺崎、1月磯部、
2月八巻、3月桑原
- ※ 前月の20日迄にメール添付で「ちばニュース」広木様、石戸様、種蔵様まで未掲載月がありますのでなんでも結構です、原稿送りましょう。
- 5) その他
 - ※ 2020全国ハイキング交流集会9月13～14日(場所未定)
関東の県連盟に主幹の要請がありましたが、千葉県連は今年度は見送ります。
 - ※ 県連総会 2020年3月7日(土)です。出席しましょう。委員会あります。
 - ※ 行事・キャンセル規定 1週間以前迄0円・2日前迄半額・1日前と当日全額。

次回委員会 2020年3月7日(土) 総会終了後、総会会場ロビーで実施します。

栃木県 大小山・大坊山縦走報告

ハイキング委員 松宮 俊一（市川山の会）

2月2日（日）、2月の会山行の下見を兼ねて、友人と二人で栃木県足利市の大小山・大坊山を縦走した。

6時30分、車で市川を出発。絶好の登山日和。雲一つない青空が広がり風も無い。

外環道・東北道と順調に走り、羽生PAで休憩し、佐野SAのスマート出口から高速道路を降りる。県道67号線を走り、両毛線の踏切を越えると、山頂直下に大・小の看板が見える山が姿を現した。あれが今日登る大小山だ。

阿夫利神社下の登山者専用駐車場に車を置き、準備体操をして出発。8時15分。舗装路をしばらく歩くと阿夫利神社の境内。樋から落ちる水音が優しく響く沢沿小高い所に小さな社殿が建つ。今日の登山の無事を祈願し、見晴らし台コース入る。

沢から離れ、植林された杉林の中を歩く。花粉症が頭をよぎる。

厚いコンクリートの板が階段状に置いてある。徐々に坂が急になり、額に汗がにじむ。ロープが下がる岩場を登ると男坂との合流点。駐車場が遥か下方に見える。

しばらく歩くと東屋のある見晴台に着いた。関東平野を一望する素晴らしい展望。背後の崖に約7m大のステンレス製の大・小の文字がボルトで取り付けられている。霊場として信仰を集めた阿夫利神社に棲む大天狗・小天狗を表しているとのこと。上州妙義山の大的字を思い出す。喉を潤し飴をなめる。

急な鉄梯子を登ると、赤茶色のチャートの露岩の尾根が続く。大小山の標示のある天狗岩を過ぎ、登り返すと大小山の最高峰妙義山。314m、9時30分。露岩が堆積した山頂は木々が無く360度の大展望。東には三毳山の上に双耳峰の筑波山。北には雪を被る男体山などの日光連山、皇海山、袈裟丸山。西には赤城山、榛名山、妙義山そして真っ白な浅間山、八ヶ岳。南には孤高の富士山と都心のビル群、スカイツリー。素晴らしい景色に時間を忘れる。

妙義山から大坊山への縦走路に入る。急な岩稜のアップダウンが続き、幾つもの峰を越える。ガマ岩の岩場を慎重にトラバースし、大きく下ると越床峠。大小山と大坊山の境界になり、左右に道が分かれている。

次の峰に登るとローソク岩の標示。縦走路を離れて行ってみるが見つからなかった。縦走路に戻り、しばらく落ち葉の道を歩くと山頂番屋に着いた。11時。簡易トイレやカエル神社、管理小屋や休憩所、テーブル・椅子がある。地主が有志の協力を得て登山者のために建てたとのこと。ありがたい。

ここでお湯を沸かし、歩いてきた峰々やふもとの街並みを眺めながらゆっくり昼食を摂る。ローソク岩も見える。ロウバイが匂う陽だまりはあたたかくて気持ちがいい。

12時。山頂番屋を後に健脚コースを登ると、眼下に珪石を採掘する足利鉱山が広がる。大型の機械やベルトコンベヤーが幾つも見える。休日のため動いていない。

片側が切れ落ちた尾根を慎重に歩き、登り返すとツツジ山。赤城山、浅間山が近くなってきた。眼下には足利市、太田市、桐生市などの市街地が広がる。振り返ると踏破してきた大小山から続く峰々。前方には縦走最後の峰大坊山。

尾根を下り、登り返すと大坊山の広い頂上。286m。多くの登山者が休んでいる。落雷で焼失した大山祇神社の礎石の奥に、真新しい奥社が建っている。礎石に腰を下ろし、喉を潤す。樹木に囲まれあまり展望は良くない。

大坊山から広い参道を下る。途中で巨大な石の記念碑。重機の無い時代にどうやってここまで運んできたのだろうと不思議に思う。大山祇神社まで降りてきた。本日の山行を無事終えたことに感謝し、会山行の成功を祈願する。13時30分。

大山祇神社からは、民家が点在する田畑の中の道を歩き、やまゆり学園から再度大小山の尾根を登り、滝コースを下山して登山口の阿夫利神社に着いた。14時30分。

今回は300m余りの低山の縦走だったが、アップダウンが激しい露岩の尾根道が続き、標高では想像できないハードなコースだった。かなり疲れたが、今後の登山に備えてのいいトレーニングになったと思う。

佐野のスーパー銭湯に立ち寄り、疲れを癒して帰路に就いた。帰りの高速道路も渋滞が無く6時過ぎに市川に帰着した。友人も久しぶりの山行で大満足していた。



山と出会った

ハイキング委員 寺崎 眞理 (ちば山の会)

山とは全く縁のなかった私が初めて山に登ったのは 58 の時だ。転勤して 3 か月ほど経った頃、職場の若者二人に「山に行きませんか。」と誘われた。私にいろいろ言われていたので、ぎゃふんと言わせたかったのだろう。

若者二人は休みの度に山に行っている。山での歩き方を即席で教わり、出発。始めの第一ベンチぐらいいは調子よく歩き、彼らもゆっくり歩いてくれていた。が、その後、霧雨が降り出し、私の足は重くなり、少しずつ遅れるようになってきた。

「あまり早く行かれると困る。」と言う私に、彼らは「一本道なので、迷子になる心配はありません。」と出発してしまう。ベンチで待っていてはくれるものの、私が着くや否や、彼らは出発する。置いて行かれると不安なので、私は休憩なしで出発。しかし、差はどんどん開いていった。彼らの傘がずうっと上の方で、ちらちらと見えると安心はしたが、不安の方がずっと多かった。

合戦小屋でやっと「ここで休憩しましょう。」と、腰を落ち着けることになった。と言っても、しっかり落ち着けていたのは彼ら。涼しい風に熱気が引き、それまでの大変さをちょっと忘れて、山っていいものだと思ってしまう。多分に、そこで食べたスイカのせいだとは思いますが…。

燕小屋でちょっと休憩し、頂上に向かった。黄土色のざらざらした奇岩を、やっと落ち着いて眺めることができた。

下山の頃は、雨が激しくなってきた。上りの岩場はそんなに気にならなかったが、下山ではどう降りていいのかわからない。年上の若者にぴったりくっついて、彼が踏んだ岩を忘れないよう、すぐ踏むようにしたので、「そんなに近寄らないでください。」と何度も言われた。でもちゃんと見ていないと、どう降りていいのかわからなくなる。

冷や冷やどきどきの初登山だったが、帰るとその快感が忘れられず、何週間も経たないうちに、娘とその子どもたちを誘って、再び、燕岳に向かった。子どもたちは小さな子が貰える登頂賞のようなものを貰ってご満悦だった。

その夏、若者二人は木曾駒が岳の計画を立てた。彼等二人、年配の男性職員とその息子さん、若い女子職員とその妹さん、私の娘の女兒二人と私の総勢 9 名。娘の二女は「空気がない。空気がほしい」とずうっとわめいていた。小さな子はより高所を感じるのか。

次の年は、また彼らと何人かの職員とで北穂高岳を目指した。だが、前日の雨の気配が残っており、涸沢でストップ。次の年に、北穂に登ることができた。小屋の主人から、「前日、年配の女性が梯子で手を滑らせ、滑落。ヘリコプターで運ばれた。」と聞いた。小屋には 60 代の男性が滑落死亡、と書かれた張り紙があった。

彼らに出会わなかったら、私は山道を踏み締める靴底の感覚、わざと枯葉にカサカサ言わせて歩く心地よさ、木々の様々な緑色、四季折々の違った風景等々に会えなかった。そして、友人が誘ってくれた「ちば山の会」にも入っていなかった。

以 上

第 22 回 県連ウイークデー山行募集

主催 ハイキング委員会

山行日 2020 年 06 月 11 日 (木) 日帰り バス利用 雨天決行

中止の場合は 3 日前までに決定します。

行き先 玉原高原 ニヶ禿山 (あまがはげやま)

テーマ 湿原と春のブナ林を楽しむ

昔 4 回シリーズを思い出して又高原の良さを探る

集合場所と時刻

A 車 JR 千葉駅 N T T 前 6 時 30 分集合出発

B 車 鎌ヶ谷市役所 6:00 集合出発＝我孫子駅北口 6:30 集合出発

行 程 貸し切りバス 2 台 (高坂 SA 合流)

(又は人数に寄り自家用車もあり)

11 日 千葉発 6:30 : 鎌ヶ谷発 6:00＝我孫子 6:30＝柏 IC＝ (高坂 SA 休憩) ＝ (赤城高原 SA 休憩)
＝沼田 IC9:30＝玉原高原センターハウス駐車場 10:30 着 トイレ、体操、準備
10:40 出発＝玉原湿原＝朝日の森ロッジ登山口 11:00/05＝鉄塔 11:45/50＝ニヶ禿山山頂
12:10/20＝鉄塔 12:40 (昼食) 13:00＝トンネル手前登山口 13:30/35＝長沢 (三角点)
14:30/35＝ブナ平 (ブナ地蔵) 14:45＝分岐＝センターハウス P 着 15:00 着予定
15:20 乗車＝「望郷の湯」16:20 入浴 17:20 出発 各地 20:00～21:00 着予定

注：雨天でも散策出来ますので決行します。雨具の用意はお忘れなくお願いします。

当日は濡れてもよい服装、靴 (又は着替え履き替え持参)

但し雨天の場合はコース変更あります。 (歩程 約 4 時間 20 分)

●道路状況によりスケジュールや時刻等は変更となる場合があります。

募集人員 50 名 (千葉発 25 名・鎌ヶ谷発 25 名) 人数により車種変更有

(今回は、春の花々や新緑を楽しみながらの、のんびりハイキングです気楽に参加してください)

費 用 約 7,000 円 バス料金及び人数により変更あり、

持ち物 山行に必要な装備：コンパス (雨具必須)。

※ キャンセル規定 1 週間以前迄 0 円、2 日前迄半額、1 日前と当日は全額負担です。

申込み〆きり 5 月 15 日 (金) 定員になり次第締め切ります。

申込先 各会で纏めて申し込みお願いします。(桑原まで)

房総の蘇生を祈って！

高宕山報告

児玉 正祐 （ふわくハイキングサークル）

台風15号・19号そして21号の来襲に伴う災害により、甚大なる被害を被った千葉県房総半島。

ふわくの山行も殆ど中止に追い込まれての12月23日「奥畑から高宕山」ハイクに参加しました。

前日から降り続いていた雨も朝方には奇跡的に上がり、久しぶりに自然を満喫させて貰えるものと期待して奥畑に向かったのですが、私の期待がいかに甘いものであったか登山道入り口にさしかかり一変に吹き飛んでしまった。

倒された巨木の数メートルにも及ぶ根が登山者を拒むように入り口を塞ぎ立ちほだかっているのです。

なぜ進入禁止の看板がないのか異様とも思われる光景です。さらに進むほどに目を覆うばかりの自然破壊の惨状に啞然とさせられました。コンクリート製の杭で作られた柵が数カ所山崩れで谷底へ流され登山道の再生不可能と思われる惨状です。

地球温暖化が進み益々災害の深刻さが懸念される今後、果たしてこの房総を蘇えらせることができるか非常に心配です。雨上がりで足下が不安定の中、全員無事下山できましたことお互いに安堵いたしました。

一方 傷めつけられた奥畑をそのままに何も手を差しのべることが出来なかったことが大変無念に思えてなりません。

いつの日か改めて奥畑の地にそして高宕山に会いに行きたいと思います。

最後になりましたが、このたびこのコースを整備切り開いて頂いた田中さんの苦労は並々ならぬものがあつたと思われます、本当にありがとうございました。

（参加者14名）



房の大山 感想文

古賀 憲治（ふわくハイキングサークル）

踏み跡残し（一人の踏み跡を濃く）

房総の山々が昨年の台風のため、ふわくニュースの高宕山の写真の通り、甚大な被害を受けました。私の住む君津の「三船山」も同じでした。

さまざまな樹木が風雨によって倒され・飛ばされ・踏み跡も薄らぎ、非常に明るくなってしまいました。

でも、同年代の人達のボランティアによって、歩けなかった山道が思っていたより早く整備され、今では山頂までの道が歩けるようになり、ホッとしています。

その頃、田中さんがチェーンソーを持って、高宕山の道を整備していると聞き参加。後日、みんなで高宕山に行き、私達の踏み跡を残し、道らしくしました。

また、現状を見るために参加した、清和県民の森 安房高山コースも、高宕山ほどではないが、すごく荒れていてあぶなかったが、歩きました。

ふわくの山行にすこしでも役に立つ事は、今は房総の山の下見に行くことだと、田中さんの行動を脇で見て感心しました。大山で原地さんがこの道は「田中新道」だと言った言葉がピッタリです。

私の出来る範囲で、現状の房総の山をよく見て、歩けるところは皆でも歩き、「高宕山」「房の大山」に続き「ご番所跡」などに、私達の踏み跡を残し、いつか安心して歩ける山を目指します。

（参加者 10 名）



ふわくHC・会報2月号より、会員の山行報告を掲載しました。

連続台風と大雨で甚大な被害を受けた、房総の山の現状報告とふるさとの自然を思う気持ちが伝わってきます。日頃から身近な自然に親しみ守っている「ふわくハイキングサークル」の皆さんに敬意を表します。

県連予定表

3月		
日付	曜日	会議・イベント
1	日	
2	月	
3	火	
4	水	
5	木	
6	金	
7	土	県連総会 13:00~ @ちばスポーツセンター幕張
8	日	ハイキング委員会（総会終了後実施）
9	月	役員会 19:00~@県連事務所
10	火	
11	水	
12	木	
13	金	
14	土	
15	日	
16	月	
17	火	
18	水	
19	木	県連理事会 19:00~@船橋西部公民館
20	金	春分の日
21	土	
22	日	
23	月	教育遭対委員会 19:00~@県連事務所
24	火	
25	水	
26	木	
27	金	
28	土	
29	日	
30	月	
31	火	

4月		
日付	曜日	会議・イベント
1	水	
2	木	
3	金	
4	土	
5	日	
6	月	役員会 19:00~@県連事務所
7	火	
8	水	
9	木	
10	金	
11	土	
12	日	
13	月	
14	火	
15	水	
16	木	県連理事会 19:00~@船橋西部公民館
17	金	
18	土	
19	日	
20	月	
21	火	
22	水	
23	木	
24	金	
25	土	
26	日	
27	月	教育遭対委員会 19:00~@県連事務所
28	火	
29	水	昭和の日
30	木	

事故発生時の連絡先

事故一報は一か月以内に！

- ①全国連盟事務局へメールまたはファクス
 メール： jwaf@jwaf.jp
 ファクス： 03-3235-4324
- ②県連教育遭対委員会にメールまたはファクス
 メール： itou2385@yahoo.co.jp（伊東）
 ファクス： 043-271-4704（岡田）

連盟費の振込先はこちら！

郵便振替口座 00160-3-0481509
 千葉県勤労者山岳連盟

発行者： 千葉県勤労者山岳連盟

発行責任者： 広木国昭

住所： 〒261-0013 千葉市花見川区幕張本郷 1-29-18 レジデンス幕張台 101号室

電話： 043-306-1190

E-mail： rousanchiba@grape.plala.or.jp

HP： <https://www.cwaf.jp>

編集者からの一言

◇3月7日（土）に、第54期・第55期千葉
 県連定時総会が開催されます。
 ・新年度の活動・予算等は4月号に
 掲載します。

◇コロナウイルスの影響で、大会や
 イベント等が中止になっている
 今後どのような展開になるのか
 予測は出来ないが、山への行き
 帰りの車中が気になりますね。

◇各会では、新年度総会が実施され
 ると思います。総会日程を県連に
 知らせて下さい。